

主 催
公益財団法人 日本ビフィズス菌センター

第19回 腸内細菌学会

発表演題募集・プログラム

メインテーマ



腸内細菌の多様な機能と 宿主とのインターラクシオン

—機能研究から、そのメカニズム解明へ—



開催日 平成27年6月18日(木)・19日(金)

会 場 北里大学薬学部
「コンベンションホール」
東京都港区白金 5-9-1

大会長 五十君 静信 (国立医薬品食品衛生研究所)
副大会長 岡田 信彦 (北里大学薬学部)

事前参加費 会員 6,000 円 一般 8,000 円 学生 1,500 円
当日参加費 会員 8,000 円 一般 10,000 円 学生 2,000 円
(予稿集会員・学生無料配布、当日別売 1,000 円)

腸内細菌学会ホームページ <http://bifidus-fund.jp/>

一般演題 A・B 申込要領

平成27年1月30日(金)まで

本年度は、口頭発表時間の異なる **一般演題 A** と **一般演題 B** の2種類の募集となります。

常在・病態菌叢およびその生態・分類・意義・腸管免疫・食品微生物・プロバイオティクス・プレバイオティクスなどに関する研究の発表を下記の要項に従ってお申し込みください（メインテーマと関連がなくても結構です）。

本大会の一般演題は、大会1日目午前中のセッションでの発表（10分程度の口頭発表〔質疑応答含む〕）【一般演題 A】と、大会2日目の午前中のセッションでの発表（15分程度の口頭発表〔質疑応答含む〕）の【一般演題 B】の2つの形式といたします。この内「一般演題 A」については若手研究者による発表や、シーズあるいは萌芽的な研究の発表を歓迎いたします。なお「一般演題 A」での発表の中から本センター選考委員によって優秀な発表と評価された発表者に対して「最優秀発表賞」（表彰状および副賞）が贈られます。

（公財）日本ビフィズス菌センターは特許庁による特許第30条第1項の規程にもとづく学術団体として指定を受けています。

① **申込方法** ・抄録用原稿を E-Mail にてお送りください。メール本文には「一般演題 A での発表希望」なのか「一般演題 B での発表希望」なのかを必ず明記してください。

② 作成要領

❗ 要旨および発表スライドには、会社名、製品名の使用は避け（自社製品は除く）、成分名等にて記載ください。

- 【一般演題 A】 ・平成27年6月18日現在で40歳未満の方を対象とします。
- ・抄録用原稿は MS-Word もしくはテキストで作成してください。
 - ・用紙の大きさは A4 1枚とし、上部に演題名・英文タイトル・演者（○をつける）・共同研究者の氏名および所属を明記してください。
 - ・本文の長さは和文 1,000 文字または英文 550 ワード内とし、「目的、方法、結果、考察」の順で記入してください。
 - ・締切：**平成27年1月30日(金) 必着**にて事務局までお送りください。

タイトル
英文 Title

○腸内太郎¹、腸内花子²
¹腸内大学研究所、²株式会社 腸内細菌

【目的】…

【方法】…

【結果】…

【考察】…

- 【一般演題 B】 ・抄録用原稿は MS-Word もしくはテキストで作成してください。
- ・用紙の大きさは A4 1 枚とし、上部に演題名・英文タイトル・演者 (○をつける)・共同研究者の氏名および所属を明記してください。
 - ・本文の長さは和文 1,000 文字または英文 550 ワード内とし、「目的、方法、結果、考察」の順で記入してください。
 - ・締切：**平成 27 年 1 月 30 日 (金) 必着** にて下記事務局までお送りください。

③ 発表時間

【一般演題 A】 6 月 18 日 (木)

大会第 1 日目午前中のセッションでの発表 (10 分程度の口頭発表 [質疑応答含む])

※同日に行われる懇親会にて、「一般演題 A」の発表の中から最優秀発表賞の表彰を行います。

【一般演題 B】 6 月 19 日 (金)

大会第 2 日目午前中のセッションでの発表 (15 分程度の口頭発表 [質疑応答含む]) となります。

※発表時間は変更になる可能性がございますのでご了承ください。

④ 申込先および事務連絡先

公益財団法人 日本ビフィズス菌センター事務局

〒 170-0002 東京都豊島区巢鴨 1-24-12

TEL 03-5319-2669 FAX 03-5978-4068

E-Mail アドレス jbf@ipec-pub.co.jp

ホームページ <http://bifidus-fund.jp/>

⑤ その他

ご発表方法や時間などは採択後に発表者にご連絡します。

なお、演題の採択は学術委員会の審査を経て、大会長が判断いたしますのでご了承ください。

投稿のお願い

本学会でのご発表の内容を和文誌『腸内細菌学雑誌』または日本ビフィズス菌センター・日本乳酸菌学会・日本食品免疫学会の合同欧文誌『Bioscience of Microbiota, Food and Health』へご投稿ください。原稿の種類は、原著・総説・ノート何れでも構いません。



学会スケジュール (予定)

第1日 6月18日 (木)

9:30 ~ 9:40 開会の挨拶

大会長 五十君 静信 (国立医薬品食品衛生研究所)

9:40 ~ 12:00 一般演題 A 発表

(12:00 ~ 13:30 昼食休憩)

13:30 ~ 14:30 海外特別講演

Todd R. Klaenhammer (North Carolina State University)

“Genomic views of prebiotic and probiotic mechanisms that impact health”

14:40 ~ 14:50 日本ビフィズス菌センター研究奨励賞授賞式

14:50 ~ 15:15 受賞講演

15:15 ~ 17:45 シンポジウム1 『腸内細菌の多様な機能』

① 森田英利 (麻布大学獣医学部)

「最新のハダカデバネズミ研究と腸内細菌叢」

ハダカデバネズミ (naked mole rat: NMR) は、顕著な老化耐性機構と癌化耐性機能を有し哺乳類では珍しい真社会性という生活形態を示すことから、癌研究、老化研究および不妊階級をもつ視点からの行動生態学の研究に用いられているモデル動物である。この動物の腸内細菌叢解析研究の最新の知見について報告する。

② 中山二郎 (九州大学)

「アジア人の食と腸内細菌と健康に関するマルチコホート研究」

腸内フローラの解析を次世代シーケンサーを用いる手法により遺伝子レベルで詳細に解析している。アジアの諸外国と共同研究で、多様な食文化を有するアジア人の食と腸内フローラと健康について調査し、その関連性を見出すための研究を進めているが、その成果について報告する。

③ 藤原大介（キリン（株）基盤技術研究所）

「*Lactococcus lactis* JCM5805 株の免疫調節作用」

ウイルス感染に応答して、感染防御機能を制御するプラズマサイトイド樹状細胞を活性化させる乳酸菌として *Lactococcus lactis* JCM5805 株が選抜された。本乳酸菌によるプラズマサイトイド樹状細胞活性化メカニズムとその効果について報告する。

④ 朝原 崇（（株）ヤクルト本社中央研究所）

「臨床領域におけるプロバイオティクス・シンバイオティクスの感染症予防効果について」

シンバイオティクス療法は、生菌のプロバイオティクスだけでなく、増殖因子であるプレバイオティクスを併用する療法のことであり、腸内細菌叢や腸内環境を整える予防・治療法として周術期や重症病態の患者における有用性の報告が近年注目されている。医学領域においては、実験的証拠に基づいた治療法の評価が重要視されてきており、シンバイオティクス療法についてもそのような観点からの有用性の証明が重要であると考えられる。シンバイオティクス療法の一連の研究結果から、腸管内治療の効果とそのメカニズムについて報告する。

⑤ 戸塚 護（東京大学大学院農学生命科学研究科）

「プロバイオティクスによる経口免疫寛容誘導の強化」

免疫系は生体内に侵入してきた病原体を認識することによりこれを排除しようとする。一方経口摂取した食物抗原など「生体にとって安全なもの」を認識した場合にはそれに反応しない仕組みも備えており、経口免疫寛容として知られている。プロバイオティクス摂取による寛容誘導強化とフィトケミカルの効果について報告する。

18:30～20:00 懇親会（会場：北里大学内）

皆様奮ってご参加ください。

第2日 6月19日(金)

9:00～12:00 一般演題 B 発表

(12:00～13:30 昼食休憩)

13:30～14:30 特別講演

清野 宏 (東京大学医科学研究所炎症免疫学分野)

「腸内細菌と粘膜免疫によるクロストーク：共生と排除環境構築と制御」

14:40～17:10 シンポジウム 2

『腸内細菌と宿主とのインターラクシオン』

① 横田 篤 (北海道大学大学院農学研究院)

「コール酸摂取ラットにおける脂肪肝の発症と腸内細菌叢の変動」

胆汁酸は胆汁の主成分として含まれる化合物で、食事の中の脂質の消化吸収を補助する役割を果たす。高脂肪食を摂取した場合の胆汁酸の変化、腸内細菌叢のバランスとメタボリックシンドロームとの関係について報告する。

② 綾部時芳 (北海道大学大学院先端生命科学研究院)

「Paneth 細胞と腸内細菌のクロストークからみた疾病」

粘膜における抗菌ペプチドのはたらき腸上皮細胞が分泌する抗菌ペプチドによる腸内細菌制御の分子基盤と、腸管自然免疫が関係する疾病について報告する。

③ 河本新平 ((独) 理化学研究所統合生命医科学研究センター)

「Foxp3+T 細胞および IgA による腸内細菌制御」

Foxp3 陽性 T 細胞が腸内細菌の多様性にかかわること、ならびに腸管 IgA の産生メカニズムと腸内細菌制御のかかわりに関して報告の予定。

④ 原 英二（(公財) がん研究会がん研究所）

「肥満とがん：腸内細菌の関与について」

高脂肪食が与える影響に関する知見、細胞老化シグナルからみた慢性炎症と癌進展の新しい発症メカニズムの解明について報告する。

⑤ 福田真嗣（慶應義塾大学先端生命科学研究所）

「腸内細菌叢由来代謝物による生体修飾機構」

メタボロゲノミクスにより、腸内細菌叢の機能として腸内細菌が産生する代謝産物が宿主の生体恒常性維持において重要な役割を担っていることが明らかとなったことから、腸内細菌叢を制御できれば健康維持・予防医学に寄与すると考えられるため、腸内細菌叢制御技術構築について報告する。

17:10～17:20 **閉会の辞**

交通アクセス・マップ

北里大学 白金キャンパス (薬学部校舎)

最寄り駅からの交通機関

- A 【渋谷駅】** 東口下車 都バス「田 87」系統 田町駅行 15分 北里研究所前下車
- B 【広尾駅 (地下鉄日比谷線)】**
天現寺橋方 (出口 1、2 番) 下車 徒歩 10分
- C 【恵比寿駅 (JR・地下鉄日比谷線)】**
東口下車 徒歩 15分または都バス「田 87」系統 田町駅行 7分 北里研究所前下車
- D 【田町駅 (JR)、三田駅 (都営地下鉄浅草線・三田線)】**
三田口下車 都バス「田 87」系統 渋谷駅行 15分 北里研究所前下車
- E 【白金高輪駅 (地下鉄南北線・三田線)】** 恵比寿方面出口 (3 番) 下車徒歩 10分または都バス「田 87」系統 渋谷駅行 5分 北里研究所前下車

